



S.Setoguchi

サマー2000シリーズ

THE KOKURA KINEN

第60回 農林水産省賞典 小倉記念 (GIII)

1着 賞 43,000,000円 2着 賞 17,000,000円 3着 賞 11,000,000円 4着 賞 6,500,000円 5着 賞 4,300,000円  
 付加賞 427,000円 122,000円 61,000円



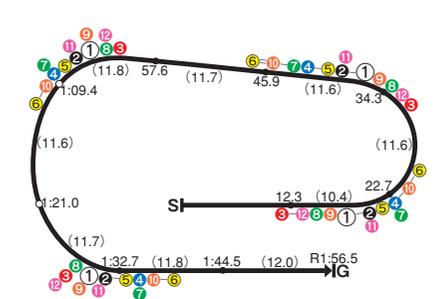
レース映像は  
 コチラでご覧  
 いただけます。

3歳以上、2023.8.12以降2024.8.4まで1回以上出走馬、除未出走馬および未勝利馬  
 負担重量 ハンデキャップ

2024.8.11 中京 晴・良 芝2000m (国際) (特種)

順	馬番	馬名	性別	年齢	斤量	騎手	タイム (管差)	コーナー 通過順位	上り (600m)	馬体重 (増減)	単勝 オッズ	調教師	レーティング
1	①	リフレミング	牡	6	57	川田将雅	R1:56.5	8-8-8-8	34.1	466(-4)	4.2①	鮫島一步(栗東)	108
2	⑩	コスタボニータ	牝	5	56	坂井瑠星	クビ	2-2-2-2	35.2	476(-4)	6.8④	杉山佳明(栗東)	105
3	⑪	ディーボンスター	牡	6	58.5	浜中 俊	¾	6-6-6-6	34.5	464(-4)	4.3②	池江泰寿(栗東)	109
4	⑤	ヴェローナシチー	牡	5	54	団野大成	½	5-5-5-5	34.9	508(-12)	16.2⑧	佐々木晶三(栗東)	99
5	⑫	セントカメリア	牝	5	53	幸 英明	クビ	11-11-10-10	34.1	454(+4)	18.5⑨	高野友和(栗東)	
6	②	グランスラムアスク	牝	5	52	永島まなみ	½	6-6-6-6	34.7	474(+6)	19.5⑩	矢作芳人(栗東)	
7	③	レッドランメルト	牡	5	56	吉田 豊	¾	12-12-12-10	34.3	504(-12)	12.7⑥	国枝 栄(美浦)	
8	⑧	ファユエン	牝	6	53	菊沢一樹	1	9-9-8-8	34.7	470(+6)	12.6⑤	勢司和浩(美浦)	
9	⑦	シリウスコルト	牡	3	54	西村淳也	¾	3-3-3-3	35.6	478(±0)	4.8③	宗像義忠(美浦)	
10	④	メモリーレオン	牝	5	54	古川吉洋	クビ	3-4-3-3	35.7	456(-4)	15.1⑦	長谷川浩大(栗東)	
11	⑥	テーオーシリウス	牡	6	54	酒井 学	¾	1-1-1-1	37.0	458(-12)	30.3⑪	奥村 豊(栗東)	
12	⑨	コスモカレンドゥラ	牡	8	53	和田竜二	¾	10-10-10-10	35.4	478(+6)	147.5⑫	粕谷昌央(美浦)	

単勝①420円(1½%) 複勝①150円(1½%) ⑩220円(4½%) ⑪160円(2½%) 枠連①-⑦990円(4½%)  
 馬連①-⑩1,670円(5½%) ワイド①-⑩610円(5½%) ①-⑩410円(1½%) ⑩-①560円(4½%)  
 馬単①-⑩2,710円(8½%) 3連複①-⑩①2,210円(2½%) 3連単①-⑩①10,570円(10½%)



通過タイム： 600m 800m 1000m 上り： 800m 600m  
 34.3 - 45.9 - 57.6 47.1 - 35.5

アラカルト

- 川田将雅騎手はエヒトで制した23年に続く小倉記念3勝目。JRA重賞は本年7勝目、通算137勝目
- 鮫島一步調教師はタツゴウゲキで制した17年に続く小倉記念2勝目。JRA重賞は本年初勝利、通算26勝目
- キングヘイロー産駒はJRA重賞通算15勝目
- 6歳馬の勝利は23年エヒトに続く通算6回目
- 勝ちタイム1:56.5は22年金鯨賞でジャックドルが記録した1:57.2を更新するコースレコード

# リフレーミング Reframing

牡 黒鹿毛 2018.3.19生  
北海道新ひだか町 橋本牧場生産  
馬主・栗山学氏 栗東・鮫島一步厩舎  
馬名意味・良いも悪いも本人の考え方次第

スウィートインディUSA系 F8-I

キングヘイロー 鹿毛 1995	ダンシングブレーヴUSA 鹿毛 1983	Lyphard Navajo Princess
	グッバイヘイローUSA 栗毛 1985	Halo Pound Foolish
ヒーリング 鹿毛 2013	バトルプランUSA 鹿毛 2005	Empire Maker Flanders
	キャットニップ 栗毛 2004	タバスコキャットUSA スウィートインディUSA

5代までのインブリード：Sir Gaylord S5×S5 Storm Bird M5×M5

## INTERVIEW

橋本博代表(橋本牧場)

### 本当によく頑張ってくれました

牧場時代は特に悪いところがない馬で、怪我をしり手がなかったこともなく、健康で順調に育ちました。年を経るごとに強くなり重賞を勝つまでになりましたが、これまでの29戦、本当によく頑張ってくれました。栗山オーナーが血統にこだわりを持っている方で、配合はすべてオーナーが決めていらっしやいます。今後も無事に走ってほしいと思います。

S.Okada



路線の新星に躍り出た。

4歳時の2月に2勝クラスを卒業した後は長い足踏みが続いた本馬だが、6歳を迎えて本格化し、春に3勝クラス特別とオープン特別を連勝。続く新潟大賞典、七夕賞でも5着に食い込んだ。この日はジャックポールのコースレコードを0秒7も塗り替えて鮮やかな差し切りを決め、初のタイトルを獲得。晩成の素質が花開き、充実期を迎えたキングヘイロー産駒が秋の中距離

## 父キングヘイロー

北海道新ひだか町 協和牧場生産 中央27戦6勝(高松宮記念<sup>G1</sup>、中山記念<sup>G2</sup>、東京新聞杯<sup>G3</sup>、東京スポーツ杯3歳S<sup>G3</sup>、皐月賞<sup>G1</sup>2着、マイルチャンピオンシップ<sup>G1</sup>2着、安田記念<sup>G1</sup>3着、スプリンターズS<sup>G1</sup>3着)、01年から供用、19年死亡〔代表産駒〕カワカミプリンセス(オークス<sup>G1</sup>、秋華賞<sup>G1</sup>、エリザベス女王杯<sup>G1</sup>2着)、ローレルグレイロ(スプリンターズS<sup>G1</sup>、高松宮記念<sup>G1</sup>、東京新聞杯<sup>G3</sup>、阪急杯<sup>G3</sup>、NHKマイルC<sup>Jr</sup> I 2着、朝日杯フューチュリティS<sup>G1</sup>2着)、メーディア(JBCレディスクラシック<sup>Jr</sup> I、レディスプレリュード<sup>Jr</sup> II、TK女王盃<sup>Jr</sup> III 2回、マリーンC<sup>Jr</sup> III、スパーキングレディーC<sup>Jr</sup> III)、キタサンミカヅキ(東京盃<sup>Jr</sup> II 2回、東京スプリント<sup>Jr</sup> III)、ダイアナヘイロー(阪神C<sup>G2</sup>、阪急杯<sup>G3</sup>、北九州記念<sup>G3</sup>)、クリールカイザー(アメリカジョッキークラブC<sup>G2</sup>)、クノアロー(ダイオライト記念<sup>Jr</sup> II)、リフレーミング(本馬)、ダイメイプリンセス(北九州記念<sup>G3</sup>)、シャトーブランシュ(マーメイドS<sup>G3</sup>)、ゴウゴウキリシマ(シンザン記念<sup>G3</sup>)、キングスゾーン(サマーチャンピオン<sup>Jr</sup> III)

## 母ヒーリング

北海道平取町 北島牧場生産 地方16戦1勝

リフレーミング 本馬(18 牡父キングヘイロー)中央29戦6勝(小倉記念<sup>G3</sup>、福島民報杯・L、湾岸S、天竜川特別)獲得総賞金191,485,000円  
シルヴァリリーヴス(19 牝父ラニUSA)中央1戦0勝、地方58戦2勝  
リフレクティング(21 牝父ネオユニヴァース)不出走  
ドリームジャック(22 牝父イスラボニータ)中央1戦0勝 ㊦  
カスタニッチャ(23 牝父ミッキーアイル)  
※20(流産)、24(不受胎)

## 祖母キャットニップ

北海道静内町 大典牧場生産 中央0勝。16年用途変更

ローズオヌットゥ(11 牝父ロージズインメイUSA)中央1勝、地方0勝  
プレーヴマン(12 牝父バトルプランUSA)中央2勝、地方4勝  
ヒーリング(13 前出)

## 曾祖母スウィートインディUSA

北米0勝。01年輸入、04年用途変更

ライバヴォ Rahy Pavo(00 驢父Rahy)北米11勝  
スイートマヌーヴァー Sweet Maneuver(01 牝父Meadowlake)北米2勝、ズィーレザレクション Z Resurrection(ルイジアナフューチュリティ・米2着)の祖母  
キャットニップ(04 前出)

## 鮮やかな差し切りでレコード勝ち

阪神競馬場のスタンドリフレッシュ工事にともない、変則的な開催日程が組まれた今年、暑熱対策の一環として設けられている2週間の休催期間を挟んで再開された関西ブロックの夏競馬後半戦は中京で開幕。60回の節目を迎えた小倉記念は、1965年の創設以来初めて中京へ移設して争われた。歴代の優勝馬はすべて関西馬。レース史上の「初制覇」に挑む関東馬(4頭が参戦)にとっては輸送の負担が減るぶん、チャンスも膨らんだ格好だったが、勝利の軍配は一番人気に支持された関西馬リフレーミングにあがった。

昨年が続いて今年も主導権を奪取。速いラップを刻む逃げ馬を後続は深追いつせず、縦に長い隊列でレースは進む。28年ぶりの「3歳馬制覇」も期待された関東馬、ラジオNIKKEI賞2着のシリウスコルトは3番手を追走。トップハントを背負ったテイプモンスタは中国につけ、リフレーミングの川田将雅騎手はそこから4、5馬身離れた後方で末脚を温存した。

1 オーシリウスが、2着に逃げ粘った

4コーナーから直線入口にかけて馬群は急速に凝縮。坂の上りで力尽きたテーオーシリウスをかわし、2番手を追走してきた福島牝馬Sの覇者コスタボニータが先頭に躍り出る。とはいえず、4コーナーは馬群の内めで回り、直線入口で外へ持ち出しで加速にかかった川田騎手のリードに応え、鋭い決め手を繰り出したリフレーミングが猛然と強襲。押し切りまであと一歩と迫ったコスタボニータを、キツチリと捉えたところがゴールだった。